



佐渡イチオシ食材



こんげつは **メロン** を紹介します。

グランドールという品種のメロンで、熟すと種の周りが橙色に変化します。その色がトキの羽の色に似ていることから、「トキ色メロン」という愛称で呼んでいます。

今回お話を伺ったのは、JA佐渡メロン倶楽部代表の上杉育子さんです。数種類の品種のメロンを栽培しているメロン倶楽部では、佐渡らしいメロンを出荷するために「トキ色メロン」の栽培に取り組んでいます。



4月末に発芽するように、時期や天候を見ながら種まきをし、田植えが終わった頃に、ハウスの中に苗を定植します。天井に向かってつるが伸びるように、つるを誘引しながら育てます。メロンの網目をきれいにし出すためには、水の管理が大切なので、1日に何度もハウスに行き、状態を確認しながら水やりをします。



トキ色メロンは、陽に当たらないように袋をかけて育てます。暑いハウス内での作業は大変ですが、トキをイメージする橙色になるように、丁寧に作業をします。



良質なメロンを栽培するために、1本の株からよいものだけを1〜2個残し、大切に育てます。つるの脇芽を確認し、下から数えて10〜14節目にできたものが良質なメロンになります。それよりも上にできたメロンは、編み目に亀裂が入りやすくなるので、見極めに気をつけながら栽培をします。

～JA佐渡メロン倶楽部さんからみなさんへのメッセージ～

メロン栽培を始めた時はなかなかうまくいかず、試行錯誤の連続でした。栽培の途中で、メロンの種が手に入らなくなりました。その時、トキ色メロンを絶やしたくないという思いから、トキ色メロンの種作り（採種）を行いました。この種からできたメロンは、まさに「佐渡で生まれ育ち、ロマンの詰まった島のメロン」です。ようやく自慢のメロンができあがりしました。JA佐渡メロン倶楽部の会員は、絶滅寸前のトキが増えていたのと同じように、生産者と出荷量を増やし、佐渡を代表する果実になることを夢見て栽培を続けています。



佐渡イチオシ食材
HPはこちら